

# 「抑止」

とは、相手にとって耐え難い報復力の脅しや警告によって恐怖心を抱かせ、相手の攻撃の企図を思いとどまらせ、自国の安全を図ろうという考えである。その主役は圧倒的破壊力をもつ核兵器であって、米、ロ、英、仏、中の5核兵器国はもちろん、イスラエル、インド、パキスタンのほか、北朝鮮も核抑止の名のもとに核兵器保有の正当化を計ろうとしている。また米国は同盟国を守るためとして“核の傘”を提供しているが、これも同じ考え（拡大核抑止）に基づいている。

しかし核抑止論は常に軍備拡充と国際緊張増大をもたらしてきた。核兵器使用の誘惑もあり、事故の危険性もあった。核兵器廃絶の目的を達成するためには、核抑止論の矛盾を指摘し、信奉を打破しなければならない。

この講演会では、今なお国内外に根を張る核抑止論の実態やあやまりを指摘し、克服の方向性を明らかにすることを目指す。

## Program

- 📍 司会 小沼 通二
- 📍 開会のことば 土山 秀夫
- 📍 「日本政府の核抑止論」 土山 秀夫
- 📍 「進行中の国際交渉に見る核抑止論」 梅林 宏道  
(長崎大学核兵器廃絶研究センター長)
- 📍 「核廃絶はなぜまだできないのか」 武者小路 公秀
- 📍 休憩
- 📍 パネル討論：梅林宏道および世界平和アピール七人委員会委員  
(武者小路公秀・土山秀夫・大石芳野・池田番代子・小沼通二・池内了・辻井喬)
- 📍 閉会のことば 調 漸 (核兵器廃絶長崎連絡協議会長)

日時：2013年11月30日(土)

13:30~16:30 (開場 13:00)

会場：長崎原爆資料館ホール (入場無料)

※駐車スペースに限りがあります。できるだけ公共交通機関をご利用ください。

◆共同主催：世界平和アピール七人委員会・長崎大学核兵器廃絶研究センター・核兵器廃絶長崎連絡協議会

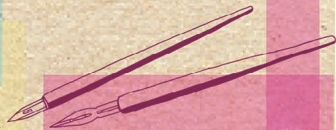
◆お問い合わせ先：

- 世界平和アピール7人委員会事務局 <http://worldpeace7.jp>  
FAX 045-891-8386 / E-mail: mkonuma254@m4.dion.ne.jp
- 長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA) <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp>  
TEL 095-819-2164 / FAX 095-819-2165 / E-mail: recna\_staff@ml.nagasaki-u.ac.jp



# 核抑止論と世界

世界平和アピール七人委員会 2013年講演会



## 世界平和アピール7人委員会とは

1955年の発足以来、人道主義と平和主義に立って、国際間の紛争は絶対に武力によらず、平和的な話し合いで解決すべきであると考え、国内・国外に意見表明を続けてきた不偏不党の有志七人の会です。

これまでに109本のアピールを発表し、毎年11月に国内の各地で講演会を開催してきました。



## 7人委員会委員

### 武者小路 公秀

むしゃこうじ・きんひで



専門は国際政治学。大阪国際平和センター（ピース大阪）会長、大阪アジア太平洋人情情報センター（ヒューライツ大阪）会長ほか、1929年ベルギー国ブリュッセル市生まれ。国連大学プログラム担当副学長、大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター所長などを歴任。著書に、「人間安全保障序説：グローバル・ファシズムに抗して」（国際書院）、日本形の形：外交・内政・文明戦略」（編著：藤原書店）などがある。

### 池田 香代子

いけだ・かよこ



翻訳家・作家。1948年東京生まれ。ドイツ語翻訳と英語訳に明け暮れていたところで、911の大惨事とアフガン「報復」攻撃に衝撃をうけ、「世界がもし100人の村だったら」を出版したことから、人生も読書傾向も大きく変わってしまった。「フユイの界」や「完訳グリム童話集」のような2000枚に何なんとする翻訳に没頭できた日々がなつかしい。教育問題や持続可能な社会について勉強中。近著に「引き返す道はもうないのだから」他。

### 池内了

いけうち・さとる



専門は宇宙論・宇宙物理学、科学と社会。総合研究大学院大学教授。1944年姫路市生まれ。京大、北大、東大、国立天文台・大阪大学・名古屋大学・早稲田大学を経て、2006年より現職。現在は科学と社会の関わりについて教育・評論活動に従事し、「新しい物理学」を提唱している。著書に、「疑似科学入門」、「時間とは何か」、「顔面の科学」、「科学者心術編」などがある。

### 土山 秀夫

つちやま・ひでお



専門は病理学。長崎大学名誉教授、元長崎大学学長。1925年長崎市生まれ。長崎平和宣言文起草委員、核兵器廃絶ナガサキ市民会議代表、「核兵器廃絶一地球市民長崎集会」実行委員会顧問ほか。核兵器を中心とした安全保障や憲法問題についても積極的に取り組み、被爆地の立場から発言を続けている。「核兵器廃絶への期待と指針」、「非核兵器地帯と被爆地の視点」、「核兵器廃絶への道」ほか論文多数。

### 大石 芳野

おおいし・よしの



写真家。フリーランスとして40年余りドキュメンタリー写真を撮り続けている。日本大学客員教授。1943年東京生まれ。土門拳賞、紫雲賞、JCJ賞受賞。写真集に、「夜と霧は今」、「沖繩に生きる」、「IROSHIMA 半世紀の肖像」、「カンボジア 苦界転生」、「ベトナム 濃と」、「アフガニスタン 戦禍を生きぬく」、「不発弾と生きる〜祈りを贈るラオス」、「福島 FUKUSHIMA 土と生きる」などがある。

### 小沼 通二

こぬま・みちじ



専門は物理学（素粒子理論、物理学史）、科学と社会。神奈川歯科大学理事、慶応義塾大学・武蔵工業大学名誉教授ほか。1931年東京生まれ。日本物理学会会長、アジア太平洋物理学会連合会長、ノーベル平和賞を受賞した「グロウプッシュ会議」の評議員などを歴任。ハンガリー科学アカデミー名誉会員、素粒子メダル功労賞、J・ロープラットフォームほか著「核兵器のない世界へ」を共同で監訳（かもがわ出版）など。

### 辻井 喬

つじい・たかし



詩人・作家。日本芸術院会員、日本ペンクラブ理事、日本文藝家協会副理事長、日本中国文化交流協会会長。1927年東京生まれ。詩集に、「群青、わが黙然」（高見順賞受賞）、「晴がいて」（現代詩花椿賞、読売文学賞詩歌俳句賞受賞）。小説に「虹の唄」（谷崎潤一郎賞受賞）、「父の肖像」（野間文芸賞受賞）、「色の空」など、随筆に「愛情と闘争」などがある。第62回恩賜賞・日本芸術院賞受賞。